

「霞ヶ浦流域研究 2018」

霞ヶ浦流域で研究を行う学生・研究者・市民が、環境や生きものに関する研究成果を発表し、地域の皆様と情報共有や意見交換を行います。皆様のご来場をお待ちしております。

【プログラム】

10:30 開会 桑原祐史（茨城大水圏センター センター長）

▼ 午前の部

- 10:35 淡水湖の沿岸帯におけるシラウオ卵の分布密度と環境要因との関係 岡本 悠（茨城大）
- 10:50 水理特性と稚魚の生息数に着目した魚巢の有効性評価 曲淵 光（茨城大）
- 11:05 北浦とその流入河川におけるチャネルキャットフィッシュの生息状況と摂餌生態 平山拓弥（茨城大）
- 11:20 霞ヶ浦沿岸帯におけるチャネルキャットフィッシュ稚魚の食性と生息場所利用 山崎和哉（茨城大）
- 11:35 霞ヶ浦周辺における最近の外来魚ダントウボウとカダヤシの生息状況 萩原富司（土浦の自然を守る会）
- 11:50 平成29年の霞ヶ浦におけるワカサギ状況および資源と環境に関する一考察 所 史隆（茨城県水産試験場内水面支場）



休憩&ポスターセッション 12:05～13:50（ポスターセッションは12:45～13:45）

- 1. ヒメスナホリムシはなぜ人の足を噛むのか 粕尾絵美・平沼稚子（鉾田第二高生物部）
- 2. 光環境におけるRH1遺伝子の変異と収斂進化 鈴木さくら・小林万莉亜・藤代彩花（清真学園高）
- 3. 越谷北高校周辺の水生生物を探る 川上 瞭・木本 颯（越谷北高生物部）
- 4. アメリカザリガニ*P. clarkii*が環境に与える影響力 伊藤 貴司（越谷北高生物部）
- 5. 霞ヶ浦におけるオオタナゴの仔稚魚の識別方法と出現時期 山本天誠（日本大）
- 6. 菅生沼で採集された外来魚4種と外来スジエビ 内田大貴（茨城大）
- 7. 北浦に流入する全23流入河川における魚類の分布と環境との関係 大森健策（茨城大）
- 8. 北浦の流入河川におけるヌマチチブの生息場所利用 石塚実紀（茨城大）
- 9. 北浦周辺の農業水路におけるキンブナの成長と成熟 石塚隆寛（茨城大）
- 10. 茅ヶ崎自然生態園の取り組みについて 赤木光子（東京海洋大海洋科学部）
- 11. ウェーブリップルが地層中に残る堆積速度の条件（予報） 滝 俊文（茨城大）
- 12. 深層ANNの画像分類を用いた河川洪水に対する防災支援情報の開発 堀 翔一郎（茨城大）

▼ 午後の部1

- 13:50 霞ヶ浦北浦における植生帯周辺の堆積物の特徴と堆積プロセス 安藤 毅（茨城大）
- 14:05 ウェーブリップルの形成における含有泥質堆積物の影響 松久祐子（茨城大）
- 14:20 数値計算による霞ヶ浦・北浦の物理構造の解析 高野稜人（茨城大）
- 14:35 霞ヶ浦における熱収支と貧酸素水塊発生に関する研究 小澤友子（茨城大）
- 14:50 数値モデルによる東京湾の河口周辺部の流動構造の解析 木村和久（茨城大）

▼ 午後の部2

- 15:20 パッシブサンブラーを用いた底層溶存酸素調査法の開発 亀田 豊（千葉工大）
- 15:35 霞ヶ浦の生態系サービスの経済評価の検討 北村立実（茨城県霞ヶ浦環境科学センター）
- 15:50 帰宅困難地域の森林河川に生息する付着藻類の放射性セシウム量の季節変化 上野山諒一（茨城大）
- 16:05 帰宅困難区域の山地溪流に生息するイワナ・ヤマメの放射性セシウム濃度の推移について 中里亮治（茨城大）
- 16:20 活魚測定法を用いた溪流魚の給餌飼育における放射性セシウムの取り込み・排出のモニタリングと魚体内のセシウム低減化法に関する研究 鈴木貴大（茨城大）

16:35 閉会 中里亮治（茨城大水圏センター 副センター長）

* 本プログラムには第一演者のみ記してあります。

日時: 2018年3月4日(日) 10:30～17:00（受付開始10:00）

参加費無料・申し込み不要

会場: レイクエコー 講座室2（茨城県行方市 宇崎1389 TEL 0299-73-3877）

主催: 茨城大学広域水圏環境科学教育研究センター (<http://www.cwes.ibaraki.ac.jp/>)

霞ヶ浦流域フィールド教育コンソーシアム

お問い合わせ

茨城大学広域水圏環境科学教育研究センター 事務局 碓井星二・加納光樹

TEL: 0299-66-6886 E-mail: suiken@ml.ibaraki.ac.jp.

* 当センターは全国唯一の湖沼の教育関係共同利用拠点「霞ヶ浦流域の水圏環境科学フィールド教育拠点」に認定されています。